

「もとはこちら」のお話し

№28 今月のテーマ 夢の世界と天国・地獄



ある講演会での平井先生

どこにいても
何していても
常に神の^{てのひら}掌の上

(平井謙次作 日めくり カレンダーより)

最近、夢を見ますか。

北原ゆり筆

それは楽しい夢、希望あふれる夢でしょうか。
夜、眠っている時に見る夢は、人によって様々です。

夢の中で亡くなった大切な方と出会ったり、さあ食べようと思ったとたんに目が覚めて、美味しそうなご馳走を食べ損なって残念がったり、また時には器用に、日をおいて前に見た夢の続きを見るといような事もあります。

悲しい夢を見て目覚めると、涙で枕が濡れている事もあれば、自分の笑い声で目が覚めるといような事もあります。

一般的には、肉体は眠った状態であるのに脳が起きている、そういう時に夢を見ると言われています。

俗に言うところのいわゆる金縛りという現象も、肉体は睡眠状態にあるのに脳が活動し、しかも恐怖体験の場合に起こるといわれています。睡眠中の突然死の中には、あまりの恐怖によるショック死というものも相当あるだろうと思われます。

この金縛り現象だけではなく、夢を見るのは過去に経験した事が脳の興奮として残っているからだと言われます。しかしそれだけでは説明しきれない不思議な夢もあります。追い求めていた難しい問題の解決のヒントが、夢の中で与えられたり、またいわゆる予知夢といううなものもあります。いわゆる正夢です。

一般的には、見たこと自体を忘れてしまう場合が多いといわれる夢ですが、しかし誰でも見るこれらの夢の世界とは、一体どこにあるのでしょうか。

夢の世界だけに限らず、自分が体験する事の全ての原因は自分の中にあります。

過去、と言っても今世だけでなく過去世までも含めての過去ですが、そこから遠い未来に至るまで、自分が体験した、あるいはこの先経験するであろう事の全てが、次元を超え、時を超えて、この自分の中に入っています。

そしてそれらが、自分が現実体験した事を縁として、過去も未来も繋がりがあっている世界の中で、心の体験として夢の中に現われるのです。

睡眠中、肉体の活動が下がった時は、代わりに心や魂の活動が旺盛になり、霊的世界を垣間見やすくなります。

この霊的世界とは時間も空間も超えた世界です。ですから私達が見る夢も、時間が矛盾していたり、場所的にも現実にはありえない事が起きたり致します。

また夢の中では実際には体は使っていないのに、あたかも体を使って現実を体験している様な感覚を味わいます。

それはこの現実世界に実際の形としては現さない様にしながら、夢の中で過去世からの因縁を消していく場合があるからです。

生き通しの自分

さて、「死んでいったいどこへ行く」、「ただいま即今ここにいる」と平井先生は自問自答されましたが、生き通しの魂の世界は、どこかこの世とは違う別の所にあるというのではありません。「ここにいる」のです。

死後の世界というのは現実そのものの世界であり、実際



に今ここに実在しております。

そしてそれは丁度、私たちが夜になって眠った後で、心地よい夢を見るか悪夢にうなされるかは、昼間の生き方次第である様に、肉体を持って生きていた時の生き方しだいで、自分の行く死後の世界が決まってくるのです。

生きている時に他人を踏みつけにしてでも自分の利益を最優先するような、我欲むき出しの生き方をしてきた人、またいつも「相手が悪くて自分が良い」と被害者意識が旺盛で、愚痴・不平・不満、泣き言・攻撃的・破壊的な生き方をしていった人の心の中は、心配事や不満や怒り等といっただったはずで、そして実際に、身の回りに争い事や不幸な事が絶えなかったはずで、

こういう人はこの世的にも地獄を味わっていたのですから、死んで肉体衣を脱いだからといって、急に極楽の住人になる等という事は絶対にありません。

肉体衣を脱ぎ去った後の魂が、天国に行くか地獄へ行くかは、ひとえに肉体を持っていた時の生き方にかかっているのです。

自分の行く先

肉体を正しくよく使い、心も働かせ、穏やかで心楽しい感謝と調和の取れた生活を心がけている人は、おおむね心も安定し穏やかな状態です。ですから大体は夜もぐっすりと眠れ、見る夢も大体は楽しい夢のはずです。

肉体衣を付けた今の生活の中で、自分自身の生き様を見



つめ直し、各人各様の立場において、できるだけ世の為人の為に生きようと努力する人、清く正しく健康的に生きようと努め、心がけているような人は、肉体衣を脱いだその後も、その波動にふさわしい世界である、いわゆる天国や極楽に行けるのです。そこには自分と同じ波動の人達がいっぱいいます。勿論地獄に行くことになれば、これまた自分と全く同じ波動、即ち地獄波動を持つ人達がいっぱいいるわけです。

極楽に行くか地獄に行くかは、自分の魂の波動が決めるのであり、決して閻魔^{えんま}さんが適当に決めてくれるわけではありません。

この魂の世界がどこか遠くの天の上にあったり、あるいは地の底にあったり、またどこか知らない遠い所にあると思うのは全くの錯覚です。

今ここに天国も地獄もあるのです。一次元、二次元、三次元、そして四次元、五次元とはじまり、数え切れない次元の世界が今ここに現存し、霊的世界も心の世界も肉体世界も、そして神仙の世界もここに重なりあって存在しています。

安心立命の世界

霊的世界のような目に見えない世界に、いたずらに興味を持つ必要はありません。そのような事をしなくても、私たちは目の前にあるこの現実世界にしっかりと根を張って、感謝心を持って生き生きにこにこと、正しく明るく生



きることに集中すれば、それだけで十分です。

そういう生き方をしていれば、誰でもその結果としてその魂にふさわしい世界、すなわち極楽行きのキップを手にすることができるとです。

現実の生き様を無視し、ある宗教を信じているから天国へ行けるとか、このご真言を唱えるだけで極楽へ行ける等と思うのは全くの妄想であり、錯覚です。

自分の魂の波動を決めるのは、自分自身の毎日の思いと言葉と行動です。善い思い、良い言葉、そして良い行いは必ず自分の波動を高め清らかなものにしてくれます。

夜どんな夢を見るか、そしてまた自分が死んだ後、極楽へ行くか地獄へ行くかも、すべては自分自身の日頃の思いと言葉と行動が決めるのです。

過去現在未来、全てにわたって、自分の人生のあり様を決めるのは、自分以外にはありません。

良い事を思い、良い様に言い、良い事を実行する、それが全てです。

編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP <http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com